

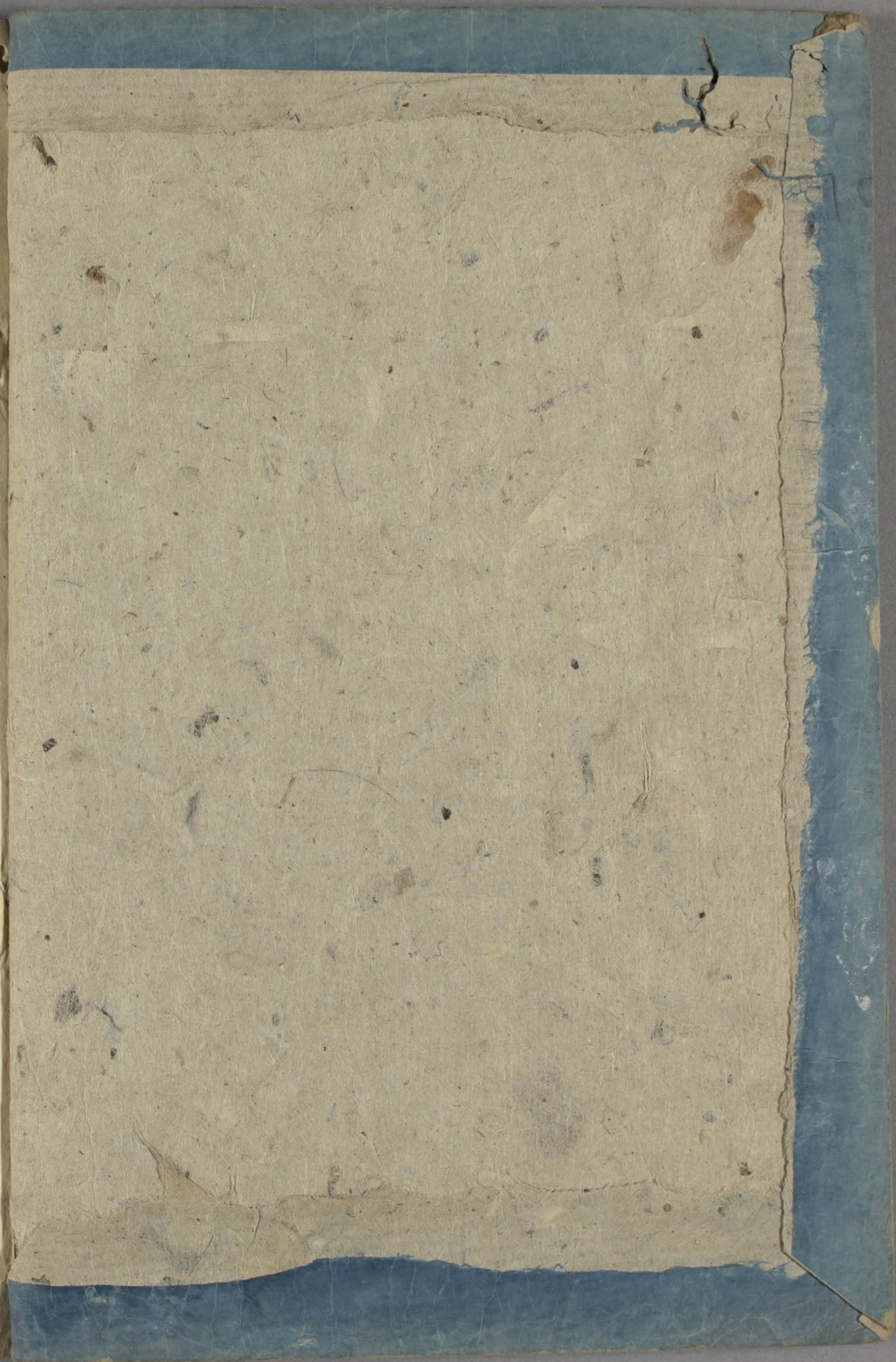


世説見談
四

□ 9
3558
4



見... 時... 母...
[Faint vertical text in a rectangular frame]



15
 472
 9
 3558
 4

陽志大牛



兎談卷之六

得時与不得

女乃祚佛しんがらと祈いのり之始かみありさほくとあり。男乃
 神佛といのり。母は其業久に能く示人いさも
 あるべし。友小處ちよこする乃身まじりなむいしやあり
 あり。むしも今と親おんふあひく其名まじりく
 わるま事人老事なり。舞まひ又かきあるふ
 母とて今弟あきて大孝乃名なり玉たまと

見

卷六

説と禹水公治るのるんあつて其地高し湯
 武を桀討乃玉惡の難也あつて聖は名者
 万民是公父母と仰ぐ。老子孔子その内り
 何ぞして不出ふと云ふも。むづの聖いみる
 天下公官あり天下を家にしてあふなり故に聖
 至尊と万民思ふ孔子いて内ふあつてを
 人ふむゆしく世に終るなり聖の必帝をふ
 何ぞあつては民ふあり聖れども何ふあつ



ば終るはさるしや思ふ。むづのいみま地
 あるを河公得るふよりの聖れ切あり必帝
 ありのあつては聖乃名公れし徳をからん
 ぞむ孔子 あり。孔子はと春秋論語
 するなり此二書なくして世の學者乃地とい
 づらんふあつてありて世の忠書公はさるす
 孔子れ あり孔子出給るく聖の切るなりよ
 るん今の世あつて不學の者學者須そは皆

孔子乃るり湯女も衆討るたさの聖乃
 切まき。あの國名菱^{くん}相^まの時^{とき}平^{ひら}の徳^{とく}あひ
 多^{おほ}其^{その}徳^{とく}いよく貴^{たか}く源^{げん}義^ぎ経^{けい}兄^{あに}弟^{てい}不和^{ふわ}乃
 難^{がた}あいて今^{いま}に義^ぎ経^{けい}あ^あま^まく^く朝^{あそ}と^とと
 とす。梶^{かぢ}原^{はら}一^{ひと}備^ひ小^こ悪^{あく}ゆ^ゆの^の女^に大^{おほ}森^{もり}彦^{ひこ}七^{しち}尾^お女^に
 の^の徳^{とく}い^いく^くそ^そ名^ない^いく^くま^まを^をの^の形^{かたち}跡^{あと}これ
 あくそ^そ傳^{つた}ふ^ふ。祐^{すけ}り^り行^ゆく^く毎^{まい}り^り難^{がた}あ^あい^いる^る
 づい^{づい}ど^どを^をさ^さり^りけ^けい^いく^く。我^{われ}の^の名^なを^をさ^さり^りお^おん^んと^と行^ゆり



いよく其徳をいつくしくかきしめんとしてかくる
 一あふるり。まして帝人誦むるをたててかえん
 や。う終る人乃慈い拙し。せうし漢の東方朔
 朝也ありあり。帝のふふい鼻の下つすかた
 ものい壽百歳ふひまらやいつりゆるや。東家
 けいんて曰く鼻下一寸ある人うらぶは壽百歳
 ぬいせむば彭祖の八百歳にぞえて鼻下八寸
 なる也し。あうむい面乃長きこと一丈なる人うら

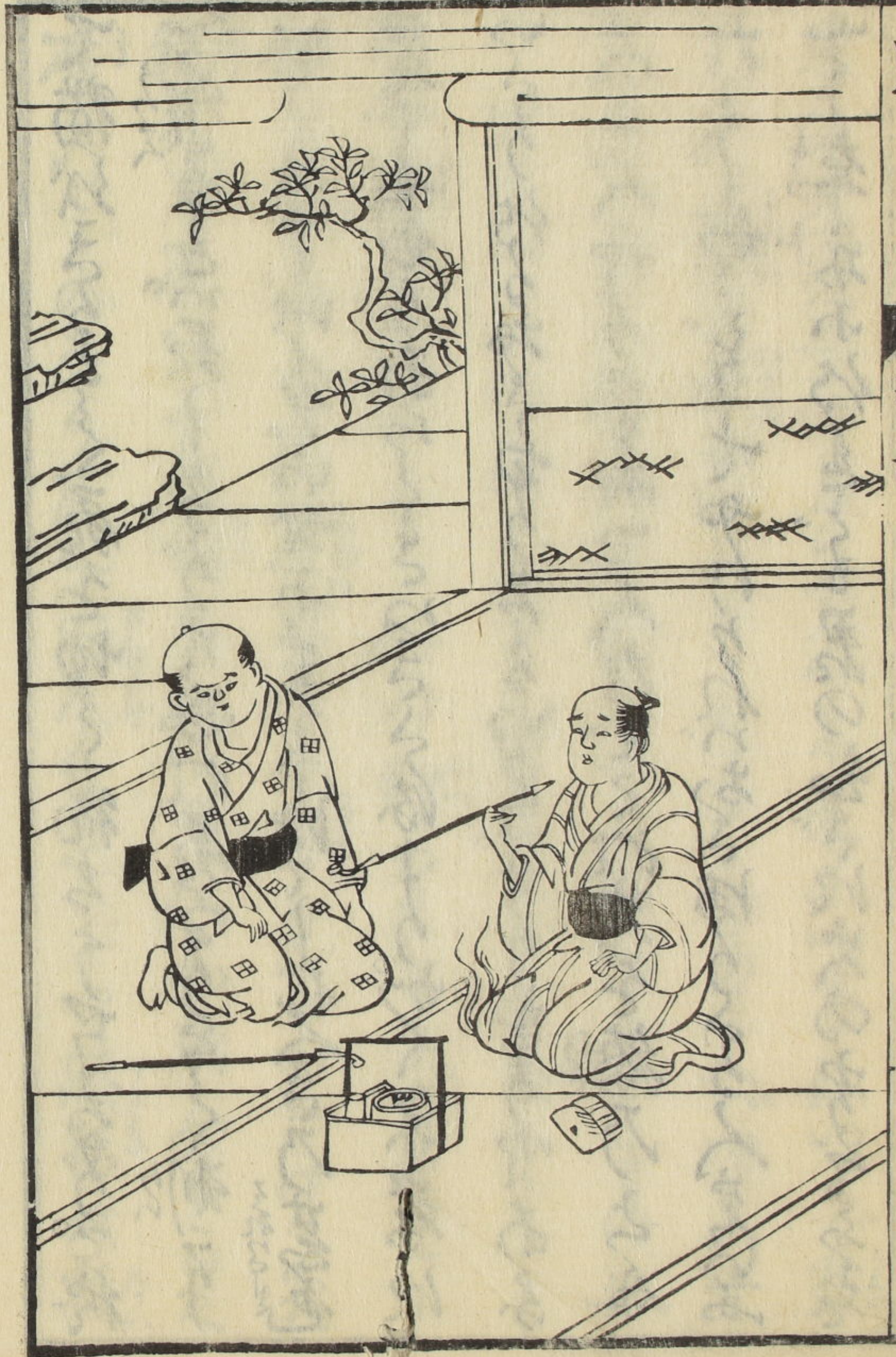
大笑ありなり。まし感ありく怪出。怪むいん乃
 怪と云る。今れ世り山海經のよる山の
 神也。世も人かそは怪して氣絶す。この
 國乃天物の山海經に載ふて急る利。され来
 愚いん中神ありその居い幽山ありてある物
 ことく茂りてある。鬼吹よ。此山乃天物を守
 たり。幽なるかく幽り。おも志ありてある。あ
 すとさい處あり。天地乃産する万物のまを怪

まことのあはづー又氣凝く形なること足り然
 かり人汚の業あるて風生いて地の業凝て
 萬物生む今其形類小婦く人あま人を
 生し鳥あまを人生し獸たて獸を生して將
 如し。按進け外愛し多死と雀乃蛤小あり
 かくあまごとく雀の生をりり多蛤りあまと
 乃ままあまりりま。まあまとあまの我身
 ちまあままはるし九竅の職あり回技此つる

つまらぬ其主宰の心かりん何とまづき乃
 る。かく多性外保りいやあま。亦神や聖今の
 世あまりのよく其名貴尊あて天地のあ
 りの徳を朽んとすまま和交乃一滴より
 あまなり奉その一滴くまら人りるあま
 乃それいごとまま。世ま人惑いあまま
 かりんまの心をかり不忠ふ孝小くあり
 其身ありてふまあまにむせんま。忠

思ひ孝公のいふ事不孝不孝ふ事候いふ熱
 し。夫^{おとし}感^{おとし}と怯^{おとし}ふいふ事多し。年々いふ日五十
 年むく一京都乃所家ふいとほぐりきこの母
 也男子一人は居りたる。男二十と二歳なりし
 時母病^ちく死しあり母乃甥^いなりたり。こ被^たふす
 知りありしが其^{あつ}屍^ご公二人^{ふた}守りてあはける我
 猶^{なほ}あり屍の上^{うへ}に越^こりては二人を公命^{こうめい}を見
 魔^ま乃^のものあり屍を妨^{さげ}んららどし。此^{こゝ}に接^つけ

て猶^{なほ}公^{こう}まらとく屍^ごを切^きく猶^{なほ}ちうせりあり。こ被^た
 と折^おちて死^ししあり母れ屍^ごなりとく刑^{けい}り
 せり。此^{こゝ}に母^{はは}ふ多^{おほ}しけり。むき乃^の母^{はは}也^{なり}
 是^{こゝ}を母^{はは}ありありとくいふ事いふ。かく不^ふ孝^{こう}候^候
 いふり候^候母^{はは}ありありとくいふ事いふ。あふ
 人二人^{ふたり}候^候りたり。時^{とき}一人^{ひとり}たむこれ中^{なか}を繕^{つく}乃^のとふ
 ねと知^しりてやけられ。あふ母^{はは}りたり人^{ひと}思^{おも}ひ
 ちう卒^すふれ。母^{はは}のむきに火^ひのやうに候^候



ぶらにありさちやと云々様を。さうそあく志く飛
 ああうらぶかくいわけまじ不^ふ奥^くみりあれた。さ
 やうおいなされたえさげもさうくあちがいの
 い矢^や礼^れやをうえさうりあるといはさるかく知^ち不^ふ
 かる人のあなげうあくるひ小^こ作^さは清^{せい}少^{しょう}納^なまら
 書^{しよ}あも人^{にん}うらちるうづはくものあやまをま
 せ。人^{にん}よあうれさ終^{しゆう}人^{にん}あらく一^{いっ}き女^{にょ}げいち乃^の
 くらまといえう。人^{にん}の世^よの人^{にん}忠^{ちゆう}情^{じやう}もの^{もの}秋^{あき}宮^{みや}外^{ほか}

よくありて中 庸にかるまづ。あまはななく
 侍るは歎かむをよむ忠むいふおぼえあり
 居りてわらふ笑ふるこそはさく人なり。それぞ
 情の天地乃心ある國と夷のあまはななく
 心と衣被れ製うりて客たるかといえ。母
 人の皆四技九竅あり文字ありてこの情は
 西に終ひて中國の文字ありて乃なる天竺
 の梵字をよんで夷と天物の鼻はかたひ

あまはななく文字皆其用を足してありて
 うりてやいづも泣哭乃怒為の声を天地乃
 間の國とむく。又情のあまはななく明の謝
 聲漸く曰世乃人愛を利達を求むるものありて
 食はくぬ人羸弱を殺むる者ありてや生を位を
 て進取する事を希ふ者ありてや生を貪り死を
 そきて利を擇む害を避むるものありてや謙を
 誇りて五にして己を尊し七を失はるを伐とむるもの

あんなや上人徳をおどしてこよるらるるものを修め者
 かりんや神小媚鬼小論しく忘れ禁ふ一福分彩る
 るものらんを堪連えん下うら無なくく小こ厭あんん急きするらるるけき
 ののあんなや天性孝友ありて素撃こを私しとあるもの
 あんなや錢をさるく怪あううくくをを見みるる迷まいいりりの
 あゝもや是にいつもよまものといふ士と稀うららるるるる
 少いことと共いこととあはれとんととわえま

見談卷之六終

見談卷之七

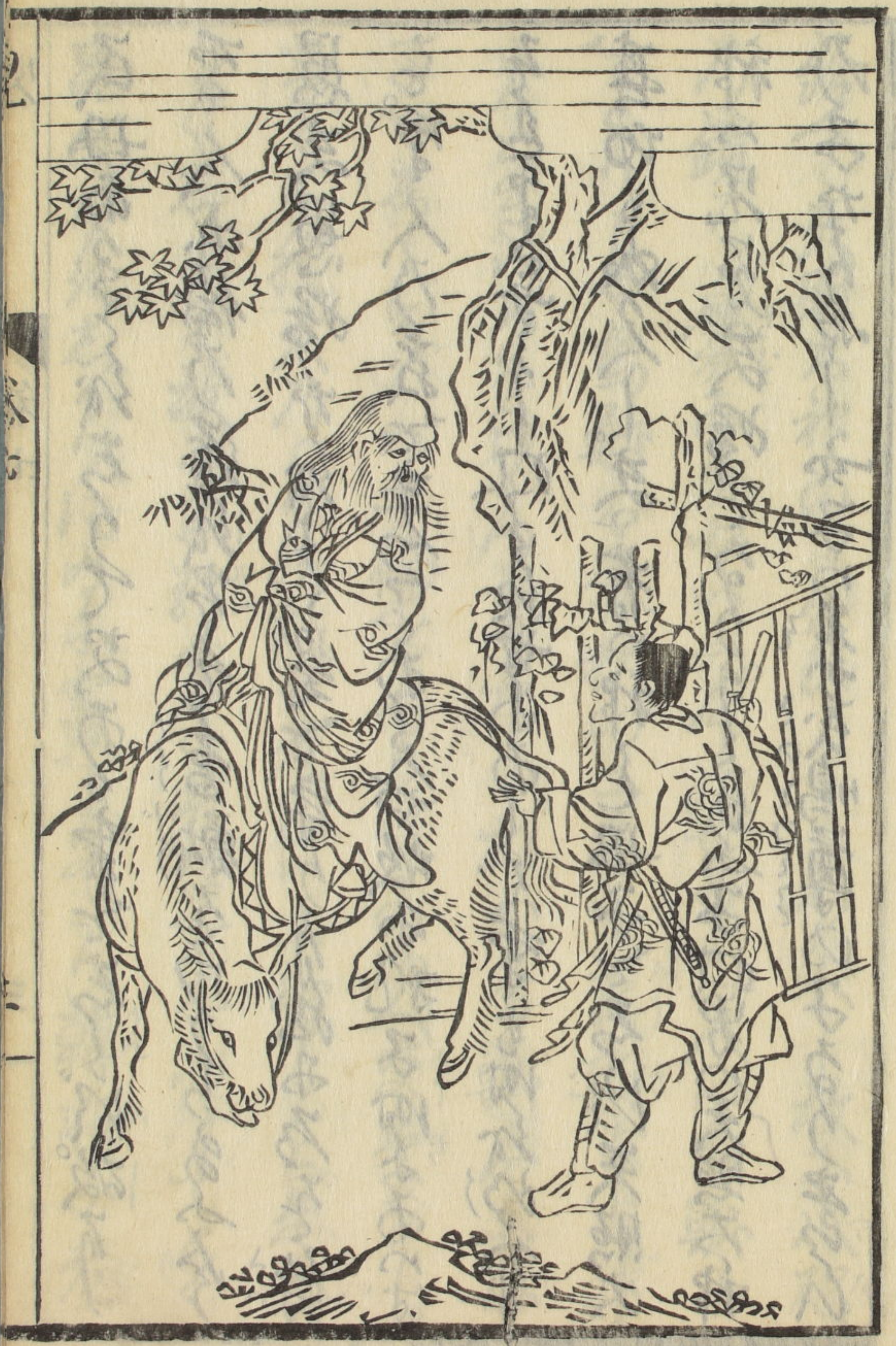
老子

老子乃曰いあいつのよく道なきをむるもの民を
 あきうふとんとんあはれ。是とるあはんとととと
 る。あはれ人乃意なり民に智あり多上れ法
 度とそふ。むるむらずと乱のりとなり。ゆゑ聖人
 少いことと全れ道の世ふく其功とるるとの舜
 禹わら神上明形とあしと玉乱りあはれる世

老子孔子せられくいてさうふいあらず。あはと河分均
とといふ。其河とと桀討乃河分と湯武と桀討
の時分得く聖忠の地あり。孔子と神分歎一多
周の且を愛つる。わのあふふ。我は是存人も不
仁の世ふゆと神分名となすと事あり。是聖賢不
とと不仁より出く至仁より名とるると故小老子
の曰器うら乃虚あり。乃る用分なり。車は三十
輻もその多あり。さして用分なると。さうより地を

ると英雄ハ敵乃道分失い。彼一なきれ。多あり。
さう其功成就と。聖人桀討。世分歎一英雄
乱世と歎と。はあ今一なり。故分鏡を道分い。玉
と有徳あり。存ふと。仁と。ふ名。我少と。名。あり。
世と。い。さ。り。と。故老子の曰。出。あり。多あり。さう
その妙と。親あり。といつり。龍の登。天。あり。て。其。妙
と。見。あり。さう。と。と。其。妙。と。貴。む。有。徳。乃。人。なり。
易乾の卦龍をみく。とく。あり。と。なり。それ。云。あり。

玄衆妙乃門といえり。玉の仁義我ふかりてたゞ
 明かりを麟鳳の六籍みりり多しはるこお
 故り老子道乃りはるを志る。ゆゑ孔子は
 人聖人ありてはるいよく乃のさるるはる
 子天下を任とすおとあつと。二篇を關東
 わるえ多矢とあふ孔子道と名ふかりてかく
 る事と矢して浪人の祖とかりを聖の名とけ
 し終ふといはる。るをむし聖乃ゆありとる



民母あること故ありて父ある事とあるは故り
 聖人五倫乃道故也と有歟をいつらあふ今
 愚丈愚婦か故よく是と守りり故もるを待
 と。聖人乃教を中つてあふや故も孔子何子あは
 るは中し母より一はとれ世もあふと事も何故か
 其由もあふ一。又昔の神と母子とあるは天照大
 神の兄弟夫婦とありうとあふ子に男の天照大神
 の子なりや一女子の素戔鳴尊の子なりとあるは

給へと天照大神のさふい一とあるは一故も八咫
 乃鏡よりきざむ響ありやいふ。今れ世も一人の鳥獸も
 とあり一や鳥獸も春秋の二季を交まりて外
 中とさといれをいつら事なり。故も鳥獸今も母
 子とありや。人の五倫とありたるのゆゑ交まりて
 ありて天乃月故も老子の上智とと。是は
 よくあるは故も子い多く老子を本いとしてよく
 呂氏か故もあり。はゆふ害とと文より韓非子老

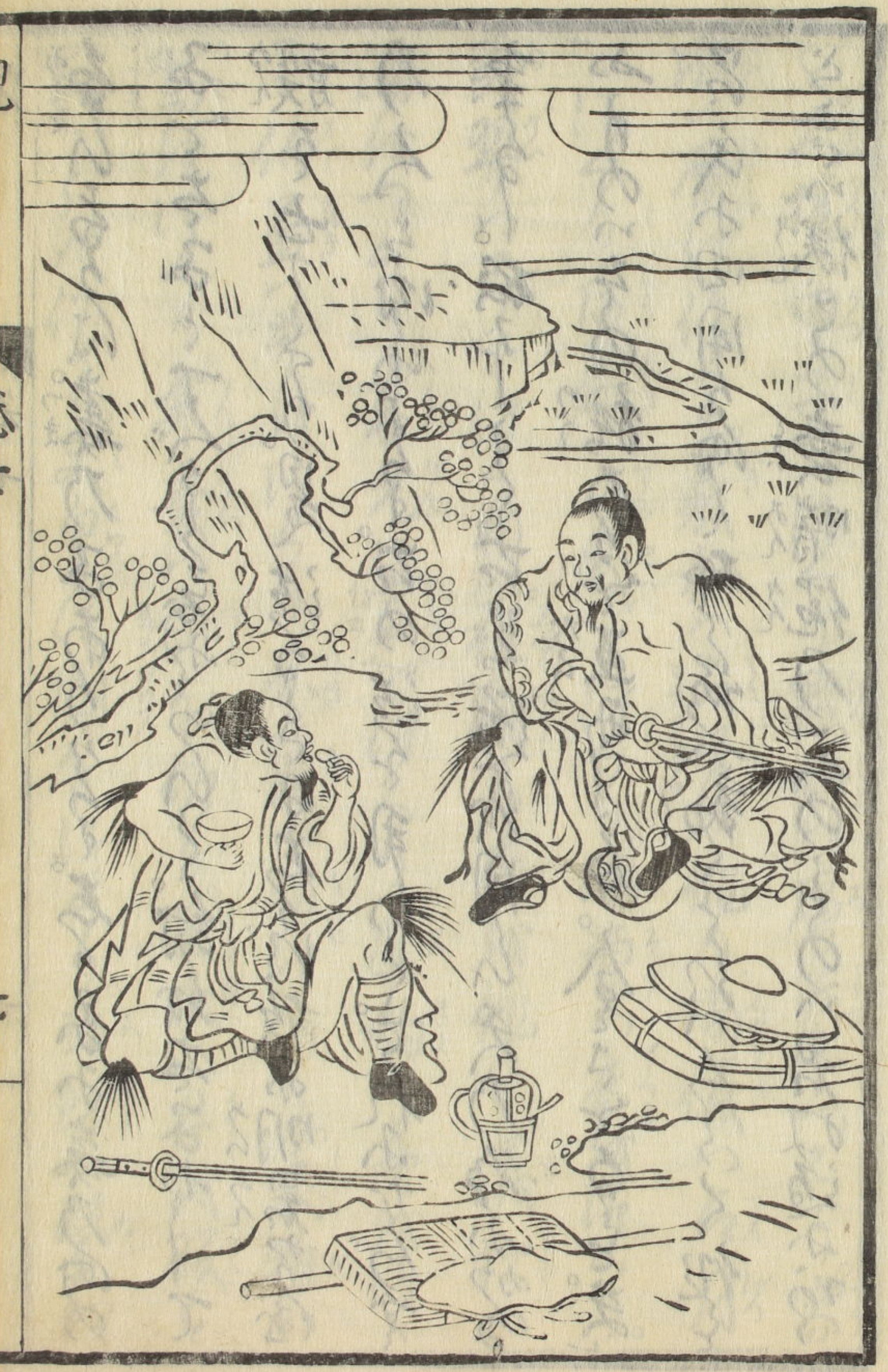
子と云くて書かんと。我も老子をありてよく説
 一多書かあつて是を秦にうつす故に李
 斯毒業とさうけく死す。此は智あられて
 書籍より化して此書かうく。今おせわしより
 書か梓一名か焦つとわいらとせし。被多集
 かりやとも何乃蓋る。中その也を書か
 しく人にあつて。我才量と人おつら
 るといとらな。被老子れ眾人なり。老子者

龜天中道と主母とあり。天乃乃陰陽寒暑
 たり。故お世お治礼盛衰あり。これお
 い有徳乃人。かうす其地お成就と。おとみ
 及と人け。そのおして中か
 故り過不及の失人。おあり。即楚の國
 み解を直くさるりのあり。父羊を竊り。こと
 とらお謁い上その子乃はくふよ。り乃
 父と執く誅とんと。つりもれを。躬を直とるの子と

是れおかりん少請ふよる其子と父おかりん謀
 さんととるつれ若更が曰父羊を竊とらん又
 父株とらんや丁とて是れつらんと信おかりん
 信おかりん孝おかりんを金信あり孝おかりんを
 株とらん國中お株とらんはるものあらんや荆
 ちつりとつれ其子と父と株と孔子とらる
 聞く曰異哉然とあつとつれものを信とらん事
 也一乃又とあつとつれまら直れおかりんとする

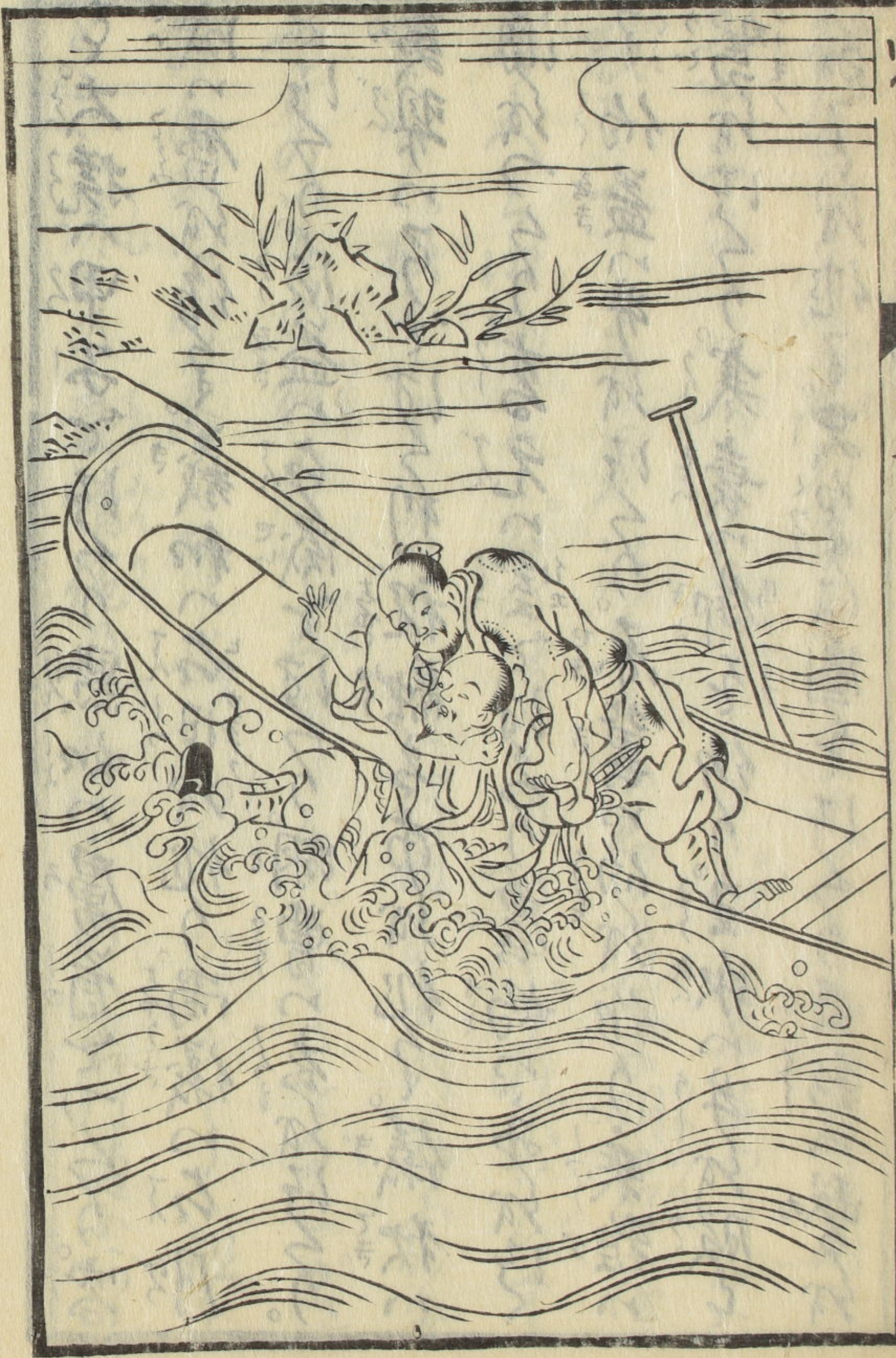
つれつれなり故つれつれ直つとつれ信は是れ後
 ありつれ海と春乃國つれ勇と好むりのありつれ
 一人の東郭お居り一人の西郭お居り一人が思ひ
 を塗つれお遇つて曰好く酒お飲んつとつれ
 ちつれつれ免つれつれ曰つれ彼肉お求つれつれとん
 一人乃曰つれおが肉つれ我が肉つれなつとつれおおの肉
 でおつれとんやつれつれとん二人が肉おさつれつれ
 肉をれつれおおつれ多飲つれつれを周つれつれ力お

互^{たがひ}不^{たがひ}其^{その}固^こ外^げ相^{あひ}成^{なり}あ^あく死^しり^りい^いあ^ありて止^とり
 たり。勇^{ゆう}れ^れか^かく乃^のお^おと^とま^まい^い勇^{ゆう}か^かれ^れた^たもの^{もの}み^みあ^あり^りと^と水^{みづ}
 つ^つえ^えり。紂^{しゆう}が^が同^{どう}母^ぼ也^や兄^{けい}弟^{てい}三^{さん}人^{にん}あ^ある^る其^{その}中^{ちゆう}に^に微^い子^し
 啓^{けい}と^とい^いふ。そ^そ次^{つぎ}に^に中^{ちゆう}衍^{えん}と^とい^いふ。そ^そつ^つぎ^ぎに^に受^う徳^{とく}と^とい^いふ。
 又^{また}懐^{くわい}い^いこ^こに^に紂^{しゆう}あり。紂^{しゆう}い^いけ^けか^かし。母^ぼ微^い子^し啓^{けい}と^と中^{ちゆう}
 衍^{えん}と^とを^を生^うみ^みし^した^たい^い毒^{どく}を^を後^{のち}妻^{つま}と^となり^りて^て紂^{しゆう}を^を生
 たり。紂^{しゆう}い^いち^ちも^もた^たん^んを^を生^うむ^むに^に紂^{しゆう}が^が父^{ちち}も^も母^{はは}も^も微^い子^し啓^{けい}
 と^とち^ち子^こと^とと^とん^んと^と欲^ほし^しり^り大^{だい}史^し法^{ぽう}と^とい^いふ^ふり^りて^てあ^あら^らし^しむ^む



重あつそいありは妻つま乃な子こありりる。若わかくふ小妻こつま乃な四よの
 子ことち子ことすんくうさやいつい。幼わか分ぶん若わか子こわして
 殷ゆんを七しちしり。是こゝ法はふをさふ志こゝろに故ゆゑ明あき君きみを極たぎ
 乃な人ひととゆふより。古ふるの法はふを用もちい。これふがら
 事ことを。故ゆゑよりよく古ふる志こゝろ道みち分ぶん用もちい。夫つま乃な乃なふか
 ありのいその能たうありを互たご舟ふね一いつ舟ふね。今いまささるとま
 呂ろ氏し小こ回かい用もちい。向むかん也なり。後のち入い新しんく。これい
 とこい僕わらわの衰おとろ暗あん倦けん乃な二にのこのい君きみの道みちふ

と大たい撓たうへ甲かう子こをけり。黙もく如じゆの虜ろ首しゆをつり。容よう
 成せいの曆れき分ぶん作さく。義ぎ和わへ古ふる日ひ分ぶん作さく。尚しやう儀ぎの古ふる月げつ
 とけり。后こう益えきの古ふる歳さいをけり。胡こ曹そうの衣い分ぶん作さく。
 夷い翠すいの古ふる衣いをけり。利り祝しゆ融じゆを市し分ぶん作さく。儀ぎ狄てきの
 酒しゆ分ぶんつり。高かう元げんの室しつをけり。虞よ姑この分ぶん作さく。
 子こ。伯はく益えきの井い分ぶん作さく。赤せき翼よくの向むか分ぶん作さく。乘じやう雅がの
 駕か分ぶん作さく。寒かん衰さいの御ごを分ぶん作さく。王わう永えいの牛うし分ぶん作さく。
 系けい分ぶん作さく。史し白はくの圖ずを分ぶん作さく。亞あ彭へいの駮はく分ぶん作さく。



けり。巫威の筆はけり。此二十宮の雪人乃天
 下は治るれとやうなり。雪人の二十友は、
 其の二十宮の巧とよく曲と。その雪人の能とつゝある。
 千里乃馬小鞍うつがま。暗君の長はけり。其
 意はよくやとと人あり。説苑曰。梁乃國の相匠
 たり。惠子梁のゆきてはんと欲し。河を渡るとそ

邊く水巾ふちらり。糸人あまてとてくみ
 づい。油梁の國を救りんとくゆきつえども。まづ
 うの河の中とてまあつと。あつてまんと
 かりつとあまといけくゆきつと得せ。河をぬく乃
 づと。あまをぬきまて。あつてぬきんや。あまを
 云。あま。そのあま長短方。騏驎駃騠は足千里あり
 とつえども。是と云ふ。あまは。あつてぬきんや。あまを
 下。あつてぬきんや。あまは。あつてぬきんや。あまを

かりぬきまて。あまは。あつてぬきんや。あまを
 里乃國の言ふ。あまは。あつてぬきんや。あまを
 多。あまは。あつてぬきんや。あまを
 中。あまは。あつてぬきんや。あまを
 天下小人なり。あまは。あつてぬきんや。あまを

兎談卷之七終

蘇州府志

蘇州府志卷之十一
 藝文志第十一
 詩
 蘇州府志卷之十一
 藝文志第十一
 詩
 蘇州府志卷之十一
 藝文志第十一
 詩

